

附属機関等の名称 会議概要

1	審議会名..... 第1回安曇野市商工業振興審議会.....
2	日..... 時..... 平成25年12月5日..... 午前10時から午前11時30分まで
3	会..... 場..... 穂高総合支所..... 大会議室.....
4	出席者..... 斎藤会長、川井委員、花村委員、佐藤委員、木口委員、仲村委員、中西委員、 小山委員、小池委員
5	市側出席者..... 大内商工観光部長、高橋商工労政課長、宮澤商工労政課長補佐、嶺村工業振興担当 係長、降幡商業労政係長
6	公開・非公開の別..... 公開.....
7	傍聴人..... 人..... 記者..... 人
8	会議概要作成年月日..... 平成25年12月13日.....
協 議 事 項 等	
1	<p>会議の概要</p> <p>(1) 開会（高橋商工労政課長）</p> <p>(2) 会長あいさつ（大内商工観光部長）</p> <p>(3) 自己紹介</p> <p>(4) 役員選出</p> <p>(5) 会長・副会長あいさつ</p> <p>(6) 審議事項</p> <p>(7) 閉会（齊藤会長）</p> <p>2 審議概要</p> <p>(4) 会長に齊藤正昭委員、副会長に佐藤克彦委員が互選される。</p> <p>(6) 議題 議長：齊藤会長</p> <p>事務局から諮問内容について、資料の説明後質疑応答を行う。 諮問内容「企業支援のための商工業振興事業助成制度の見直し」について。</p> <p>委員：地域資源活用型連携推進事業補助金の1次産業+2・3次産業が新事業の入り口というが、2・3次 が単独で始めて後から1次を取り込むというのは対象にならないのか。</p> <p>事務局：審査会で判断したい。前段部分は外部プロデューサーやコーディネーターにより、リサー チ、アプローチしていく。</p> <p>会長：審査会の委員構成のイメージはあるか。</p> <p>事務局：まだ、予算が確定していないので決めてはいないが、連携推進会議の先生や各分野で造詣の 深い方、農業等に携わっている方など、これはあくまでも参考意見だ。</p> <p>委員：対象者に1次産業事業者は入らないのか。</p> <p>事務局：商工労政を振興する制度なので、2・3次事業者が対象となり、必ず1次事業者を取り込むのが 条件。</p> <p>委員：市内の地域資源が条件だから、安定した供給のために地元産を高く買い上げるという経費も補 助対象にしたらどうか。</p> <p>事務局：外部プロデューサー設置により、食材をどのくらい必要か等調査して、確実に売れないとい けないので、コーディネートしていきたい。1次、2・3次の双方がよくなることが大事という こと。観光客の情報も重要であるということも認識している。</p> <p>会長：企業助成制度の廃止事業については、何か意見がありますか。</p> <p>委員：まだ残っていたんですかという感じだ。連携推進に対する意見だが、事業化の難易度が高い。 製造業の面では、無から有を産むので6次産業はむずかしい。審査会の運用をうまくやらないとい けない。観光の面では、事業の評価がむずかしい。補助対象事業の(3)市場性が高く、将来的に有 望であると認められる事業、について、民間では当然のことだから重きを置かない方が良い。リ スクを冒して取り組む事業も対象にしてほしい。</p>

事務局：審査会の運用について、対象事業を精査して、(3)も慎重に考えたい。観光客が（自分のところに）帰ってから、安曇野をPRしてもらうということで、観光客という資源も活用するという視点を大切に考えている。

会長：廃止の方はよろしいですね。

委員：ISOの方は今廃止しなければいけないのか。市内では取得が30社だが、東信では海外進出が多く、現地企業との取引が必要。企業のセールスポイントの1つで、経費がかかってもメリットがあれば価値がある。農商工連携で産まれた商品を海外に輸出したい時にも必要になる。利用なくとも残しておいたほうがよい。ハサップとか幅を広げてもいいのでは。

委員：さきほどは軽はずみなことを言ってしまった。ISOの継続をやめようか迷っているが、1つの国際基準なので必要ではある。工業振興事業としては載せないで、他の形でできないか。

事務局：PRがどうだったかもあるが、H23からコーディネーターが聞き取りで集約した（廃止してもよいという）意見でもある。

委員：いままで扱ってきた企業の中で、海外向けでは必要になってくる。意図的に廃止することはないし、10万円という金額はどうなのか。（もっと増額したらどうか。）光ファイバーは廃止でいい。連携事業は地域ブランドを立ち上げる意味ではぜひやってもらいたい。他市の類似の取組はどうか。

事務局：須坂市が先駆的にやっているのみで、安曇野市は早い方だ。須坂市は特定企業が対象とのこと。他県も2～3例で、助成も100万円上限が多い中で、安曇野市は600万円を考えている。

委員：ISOだけでなく、他の認証にも拡大してほしいことと、PRも積極的に行ってほしい。

委員：連携事業で、1次が2次、3次へ産業化していくのは対象になるか。

事務局：それは6次産業になると考える。2・3次事業者が他の1次事業者と連携した場合が対象となる。

会長：今回の内容を吟味いただき、調書にまとめる。次回の会議でまとめることでお願いします。他にありますか。

委員：4つのキャラクターを活用していないのが残念。農政と連携してほしい。

事務局：キャラクターの活用については、農政と協議していきたい。

事務局：今回は1月15日（水）10時から行います。今月20日までに調書の提出をお願いします。